

聖典

阿·和英佛教讚歌集

滿座那佛教會

目 次

十二禮	58	佛のみ光	27
正信偈	54	御親の聲	27
三歸依文	40	幸ある我	26
誓ひの言葉	39	月が出た	25
恩徳讃	38	佛さまとは	25
宗 歌	37	兒守歌	24
法の御山	36	聖 夜	24
なだめ	35	眞実の佛	23
み佛に抱かれて	34	生らは念佛	23
佛教青年会々歌	33	光	22
佛青行進曲	32	紅百合	21
佛教婦人	31	清きまどゝ	20
夕の歌	30	佛さま	19
朝の歌	30	まねきの御手	19
佛の子供	29	佛教徒の歌	18
佛の御手	29	白 道	17
坊やはよい子	28	合掌歌	17
ののさま	28	英語目次	1 - 15

十一禮

奢シヤ摩マ他タ行キョウ如ニヨ象ゾウ步ブ
金コン色ジキ身シン淨ジヨウ如ニヨ山マン王ノウ
無ム量リョウ佛ブツ子シ衆シユ圍ヰ繞ネウ
在ザイ彼ヒ微ミ妙メウ安アン樂ラク國コク
阿ア彌ミ陀ダ仙セン兩リョウ足ゾク尊ソン
誓ケイ首シユ天テン人ニン所シヨ恭ク敬ギョウ

故コ我ガ頂チョウ禮ライ彌ミ陀ダ尊ソン
聲シヨウ如ニヨ天テン鼓カ俱ク趺シ羅ラ
威キ光コウ猶ユ如ニヨ千セン日ニチ月グヅツ
面メン善ゼン圓エン淨ジヨウ如ニヨ滿マン月グヅツ
故コ我ガ頂チョウ禮ライ彌ミ陀ダ尊ソン
兩リョウ目モク淨ジヨウ若ニヤク青シヤウ蓮セン華ゲ

觀クワン音オン頂チヨウ戴ダイ冠クワン中チュウ住ヂュウ
 種シュ種シュ妙ノウ相ソウ寶ホウ莊シヨウ嚴ゴン
 能ノウ伏ブク外ゲ道ドウ魔マ憍ケウ慢マン
 故コ我ガ頂チヨウ禮ライ彌ミ陀ダ尊ソン
 無ム比ビ無ム垢ク廣クワ清シヨウ淨ジヨウ
 衆シュ德トク皎ケウ潔ケツ如ニョ虛コ空ク
 所シヨ作サ利リ益ヤク得トク自ジ在ザイ

故コ我ガ頂チヨウ禮ライ彌ミ陀ダ尊ソン
 十ジツ方ホウ名ミョウ聞モン菩ボ薩サツ衆シュ
 無ム量リョウ諸シュ魔マ常ジヨウ讚サン嘆タン
 爲イ諸シュ衆シュ生ジヨウ願クワン力リキ住ヂュウ
 故コ我ガ頂チヨウ禮ライ彌ミ陀ダ尊ソン
 金コン底テイ寶ホウ間ケン池チ生シヨウ華ケ
 善ゼン根ゴン所シヨ成ジヤウ妙メウ臺ダイ座ザ

於^オ彼^ヒ座^ザ上^{ジヨウ}如^{ニヨ}山^{セン}王^{ノウ}
故^コ我^ガ頂^{チヨウ}禮^{ライ}彌^ミ陀^ダ尊^{ソン}
十^{ジツ}方^{ホウ}所^{シヨ}來^{ライ}諸^{シヨ}佛^{ブツ}子^シ
顯^{ケン}現^{ゲン}神^{ジン}通^{ツウ}至^シ安^{アン}樂^{ラク}
瞻^{セン}仰^{ボウ}尊^{ソン}顏^{ゲン}常^{ジョウ}恭^ク敬^{キョウ}
故^コ我^ガ頂^{チヨウ}禮^{ライ}彌^ミ陀^ダ尊^{ソン}
諸^{シヨ}有^ウ無^ム常^{ジョウ}無^ム我^ガ等^{トウ}

亦^{ヤク}如^{ニヨ}水^{スイ}月^{ゲツ}電^{デン}影^{エウ}露^ロ
爲^イ衆^{シユ}說^{セツ}法^{ホフ}無^ム名^{ミョウ}字^ジ
故^コ我^ガ頂^{チヨウ}禮^{ライ}彌^ミ陀^ダ尊^{ソン}
彼^ヒ尊^{ソン}佛^{ブツ}刹^{セツ}無^ム惡^{アク}名^{ミョウ}
亦^{ヤク}無^ム女^{ニヨ}人^{ニン}惡^{アク}道^{ドウ}怖^フ
衆^{シユ}人^{ニン}至^シ心^{シン}敬^{キョウ}彼^ヒ尊^{ソン}
故^コ我^ガ頂^{チヨウ}禮^{ライ}彌^ミ陀^ダ尊^{ソン}

故^コ我^ガ頂^{テイ}禮^{ライ}彌^ミ陀^ダ尊^{ソン}
 往^{オウ}生^{ジョウ}不^フ退^{タイ}至^シ菩^ポ提^{ダイ}
 無^ム有^ウ諸^{シュ}趣^{シュ}趣^ク應^{エイ}知^チ識^{シキ}
 彼^ヒ尊^{ソン}无^ム量^{リョウ}方^{ホウ}便^{ベン}境^{キョウ}

我^ガ說^{ベツ}彼^ヒ尊^{ソン}功^ク德^{トク}事^ジ
 衆^{シュ}善^{ゼン}無^ム邊^{ベン}如^{ニョ}海^{カイ}水^{スイ}
 所^{ショ}獲^{ガク}善^{ゼン}根^{コン}清^{シヨウ}淨^{ジヨウ}者^{シヤ}
 迴^エ施^セ衆^{シュ}生^{ジョウ}生^{シヨウ}彼^ヒ國^{コク}



正信偈

歸命无量壽如來
南無不可思議光
法藏菩薩曰位時
在世自在王佛所
觀見諸佛淨土曰
國土人天之善惡

建立无上殊勝願
超發希有大弘誓
五劫思惟之攝受
重誓名聲聞十方
普放无量无边光
无身无對光炎王

清淨歡喜智慧
 不斷難思無稱光
 超日月光照塵刹
 一切群生蒙光
 本願名號正定業
 至心信樂願爲
 成等覺證大涅槃

必至滅度願成就
 如來所以興出世
 唯說彌陀本願海
 五濁惡時群生海
 應信如來如實言
 能發一念喜愛心
 不斷煩惱得涅槃

凡^{ボン}聖^{ジヤウ}逆^{ギク}謗^{ホウ}齊^{サイ}迴^エ入^{ニラ}
如^{ニョ}象^{シユ}水^{シイ}入^{ニラ}海^{カイ}一^{イチ}味^ミ
攝^{セツ}取^{シユ}心^{シン}光^{クワウ}常^{ジヤウ}照^{ヤウ}護^ゴ
已^イ能^{ノウ}雖^{スイ}破^ハ无^ム明^{ミヤウ}闇^{アン}
貪^{オン}愛^{ナイ}瞋^{シン}憎^{ゾウ}之^シ雲^{ウン}霧^ム
常^{ジヤウ}覆^フ真^{シン}實^{ジツ}信^{シン}心^{シン}天^{テン}
譬^ヒ如^{ニョ}日^{ニツ}光^{クワウ}覆^フ雲^{ウン}霧^ム

雲^{ウン}霧^ム之^シ下^ゲ明^{ミヤウ}无^ム闇^{アン}
獲^{ガク}信^{シン}見^{ケン}敬^{キヤウ}大^{ダイ}慶^{キヤウ}喜^キ
即^{ソク}橫^{ワウ}超^{チウ}截^{ゼツ}五^ゴ惡^{アク}趣^{シユ}
一^{イツ}切^{サイ}善^{ゼン}惡^{アク}凡^{ボン}夫^フ人^{ニン}
聞^{モン}信^{シン}如^{ニョ}來^{ライ}弘^グ誓^{ゼイ}願^{クワン}
佛^{ブツ}言^{ゴン}廣^{クワウ}大^{ダイ}勝^{シヨウ}解^ゲ者^{シャ}
是^ヤ人^{ニン}名^{ミヤウ}方^{フシ}陀^ダ利^リ華^ケ

顯大聖興世正意
中夏日域之高僧
印度西天之論家
難中之難無過斯
信樂受持甚以難
邪見憍慢愚象生
彌陀佛本願念佛

證歡喜地生安樂
宣說大乘无上法
悉能摧破有无見
龍樹大士出於世
爲衆告命南天竺
釋迦如來楞伽山
明如來本誓應機

天 <small>テン</small> 親 <small>シン</small>	應 <small>オウ</small> 報 <small>ホウ</small>	唯 <small>ユイ</small> 能 <small>ノウ</small>	自 <small>ジ</small> 然 <small>ネン</small>	憶 <small>オク</small> 念 <small>ネン</small>	信 <small>シン</small> 樂 <small>ゲウ</small>	顯 <small>ケン</small> 示 <small>ジ</small>
菩 <small>ボ</small> 薩 <small>サ</small>	大 <small>タイ</small> 悲 <small>ヒ</small>	常 <small>ジヤウ</small> 稱 <small>シヤウ</small>	即 <small>ソク</small> 時 <small>ジ</small>	彌 <small>ミ</small> 陀 <small>ダ</small>	易 <small>イ</small> 行 <small>ギヤウ</small>	難 <small>ナン</small> 行 <small>ギヤウ</small>
造 <small>ザウ</small> 論 <small>ロン</small>	弘 <small>グ</small> 誓 <small>ゼイ</small>	如 <small>ニョ</small> 來 <small>ライ</small>	入 <small>ニラ</small> 心 <small>ヒツ</small>	佛 <small>ブツ</small> 本 <small>ホン</small>	水 <small>スイ</small> 道 <small>ダウ</small>	陸 <small>ロク</small> 路 <small>ロク</small>
說 <small>セツ</small>	息 <small>オシ</small>	號 <small>ガウ</small>	定 <small>テイ</small>	願 <small>ガン</small>	樂 <small>ラク</small>	苦 <small>ク</small>

心 <small>ヒツ</small> 獲 <small>ガク</small>	歸 <small>キ</small> 入 <small>ニラ</small>	爲 <small>キ</small> 度 <small>ド</small>	廣 <small>クワウ</small> 由 <small>ユ</small>	光 <small>クワウ</small> 闡 <small>セン</small>	依 <small>エ</small> 修 <small>シユ</small>	歸 <small>キ</small> 命 <small>メイ</small>
入 <small>ニラ</small> 大 <small>ダイ</small>	功 <small>ク</small> 德 <small>トク</small>	群 <small>ガン</small> 生 <small>シヤウ</small>	本 <small>ホン</small> 願 <small>ガン</small>	橫 <small>フウ</small> 超 <small>テウ</small>	多 <small>タ</small> 羅 <small>ラ</small>	无 <small>ム</small> 身 <small>ゲ</small>
會 <small>エ</small> 衆 <small>シユ</small>	大 <small>ダイ</small> 寶 <small>ホウ</small>	彰 <small>シヤウ</small> 一 <small>イツ</small>	力 <small>リキ</small> 迴 <small>エ</small>	大 <small>ダイ</small> 誓 <small>セイ</small>	顯 <small>ケン</small> 眞 <small>シン</small>	光 <small>クワウ</small> 如 <small>ニョ</small>
數 <small>シユ</small>	海 <small>カイ</small>	心 <small>シン</small>	向 <small>カウ</small>	願 <small>ガン</small>	眞 <small>ジン</small> 實 <small>ジツ</small>	來 <small>ライ</small>

得^{トク}至^シ蓮^{レン}華^ゲ藏^{ザウ}世^セ界^{カイ}
即^{ソク}證^{シヨウ}眞^{シン}如^ヨ法^{ホツ}性^{シヤウ}身^{ジン}
遊^{ユウ}煩^{ボン}惱^{ナウ}林^{リン}現^{ゲン}神^{ジン}通^{ツウ}
入^{ニラ}生^{シヤウ}死^ジ菌^{オン}示^ジ應^{オウ}化^ゲ
本^{ホン}師^シ曩^{ドン}鸞^{ラン}深^{シヤウ}天^{テン}子^{ジン}
常^{ジョウ}向^{カウ}鸞^{ラン}處^{シヨ}菩^ボ薩^{サウ}禮^{ライ}
三^{サン}藏^{ザウ}流^ル支^シ授^{ジユ}淨^{シヤウ}教^{ケウ}

焚^{ボン}燒^{ゼウ}仙^{セン}經^{ギヤウ}歸^キ樂^{ラク}邦^{ホウ}
天^{テン}親^{ジン}菩^ボ薩^サ論^{ロン}註^{ツウ}解^ゲ
報^{ホウ}士^ド回^{イン}果^グ顯^{ケン}誓^{セキ}願^{カン}
往^{ワウ}還^{ゲン}迴^ネ向^{カウ}由^ユ他^タ力^{リキ}
正^{シヤウ}定^{テイ}之^シ回^{イン}唯^{ユイ}信^{シン}心^{シン}
惑^{ワク}深^{セン}凡^{ボン}夫^ブ信^{シン}心^{シン}發^{ハツ}
證^{シヨウ}知^チ生^{シヤウ}死^ジ即^{ソク}涅^ネ槃^{フアン}

三不三信論殷懃
 圓滿德號勸專稱
 萬善自力賤勤修
 唯明淨土可通入
 道綽決聖道難證
 諸有衆生皆普化
 必至无量光明土

開入本願大智海
 光明名號顯曰緣
 矜哀定散與逆震
 善導獨明佛正意
 至安養界證妙果
 一生造惡值弘誓
 像末法滅同悲引

行者ギヤウジヤ正受シヤウジュ金剛コンガウ心シン
慶喜キヤウキ一念イチネン相應サウオウ後ゴ
與ヨ韋提ヱダイ提トウ寄ギヤク獲サン三忍サンニシ
即ソク證シヤウ法性ホフシヤウ之シ常樂ジヤウラク
源ゲン信シン廣開クワウカイ一イチ代ダイ教キヤウ
偏歸ヘンキ安養アンヤウ勸クワン一イチ切キヤク
專セン雜ザク執シヤク心シン判ハン淺深センシン

報化ホウケ二ニ士シ正辦シヤウベン立リツ
極重ゴクジュウ惡入アクニシ唯稱ユイシヤウ佛ブツ
我ガ亦ヤク在ザイ彼ヒ攝取セツシユ中チュウ
煩惱ボンノウ障眼シヤウゲン雖スイ不フ見ケン
大ダイ悲ヒ无ム倦ケン常照ジヤウセウ我ガ
本ホン師シ源空ゲンクウ明佛メイブツ教キヤウ
憐レン愍ミン善惡ゼンアク凡夫ボンブ人ジン

眞^シ宗^ウ教^ケ證^ウ興^シ片^コ片^ワ州^シ
選^セ擇^ジ本^ホ願^グ弘^グ惡^ア世^セ
還^ゲ來^{ライ}生^シ死^シ輪^{リン}轉^{ゼン}家^ゲ
決^ケ以^ケ疑^ギ情^ジ爲^チ所^シ止^シ
速^{ソク}入^ニ寂^{ジク}靜^{ジヤウ}无^ム爲^チ樂^{ラク}
以^{ヒツ}信^{シン}心^{シン}爲^チ能^{ノウ}入^ニ
弘^グ經^{キヤウ}大^{ダイ}士^ジ宗^{シウ}師^シ等^{トウ}

拯^{ジウ}濟^{サイ}无^ム邊^{ヘン}極^{ゴク}濁^{ジヨク}惡^{アク}
道^{ダウ}俗^{ゾク}時^ジ衆^{シユ}共^グ同^{ドウ}心^{シン}
唯^イ可^カ信^{シン}斯^シ高^{カウ}僧^{ソウ}說^セ

初重

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南

彌陀成佛ミダシヤフゾツノコノカタハ

イマジフカフ三十劫ジフカフヲヘタマヘリ

法身ホフシンノ光輪クワワリンキハモタ

世セノ盲冥マツミヤクヲテラスオ

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南

智慧チエノ光明クワウミョウハカリナシ

有量ウリョウ諸相シヨウコトゾク
 光クワウ曉キョウカラヌモノハナシ
 眞實シンジツ明メイニ歸命クイメイセヨ
 南无阿弥陀佛
 南无阿弥陀佛
 南无阿弥陀佛
 南无

二重
 阿弥陀佛

南无阿弥陀佛
 南无阿弥陀佛
 南无阿弥陀佛
 南无阿弥陀佛
 南无阿弥陀佛

南

解脱ノ光輪ゲダチ クワウリンキハモナシ

光觸クワウソクカフルモハミチ

有ウ无ムヲスルトベタ多

平等ヒヤウドウ覺カクニ歸命クキミヤウセヨ

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南

光雲クワウウン无身ムシ如ニヨ虚空コクウ

一切ヒカリクモノコトクシテサハリナキコト有身ウシニサハリナシ

光澤クワウタクカフラヌモノゾナキ

難思ナンシ議ギヲ歸命クキミヤウセヨ

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南^{三重}无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南

清淨光明シヨウジヨウクワウミョウナラビナシ

遇斯光グシクワウニヘナレバ

一切イッサイノ業ゴフケ繫ケモゾコソヌ

畢竟依ヒキキヤウエヲ歸命クキミョウセヨ

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

南

佛ブツ光クワウ照セウ耀エウ最サイ第ダイ一イチ

光炎クワウエン王佛ワウブツト多タ多タ

三塗サムツ震フク闇ヤムヒヒ多タ多タナリ

大應ダイオウ供カヲ歸命クキミョウセヨ

願ガン以ニヨ此ラ功イナリ德シ
41

平等ビヤウドウ施セ一イチ切サイ

同ドウ發ホク菩ボ提ダイ心シム

往ワウ生ジヤウ安アン樂ラク國コク

三歸依文

○人身受け難し今日に受く佛法聞き難し今日に聞く此身
今生に向つて度せずんば更に何れの生に向つてか此身
を度せん大衆諸共に至心にて空に歸依し奉るべし。

自ら佛に歸依し奉る當に願はくば衆生と共に大道を
體解して無上意を發さん。

自ら法に歸依し奉る當に願はくば衆生と共に深く經
藏に入りて智慧海の如く成らん。

自ら僧に歸依し奉る當に願はくば衆生と共に大衆を
統理して一切無碍成らん。

○無上甚深微妙の法は百千萬劫にも相遇ふこと難し我今見
聞し受持することを得たり願はくば如來の眞実を解し奉らん。

誓ひの言葉

み佛様ホトケサマは私共ワタシどもの親様オヤサマであります。

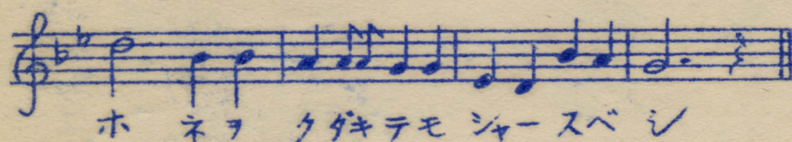
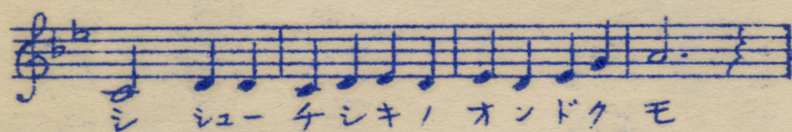
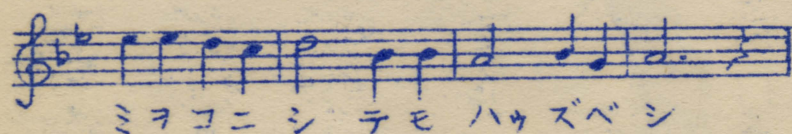
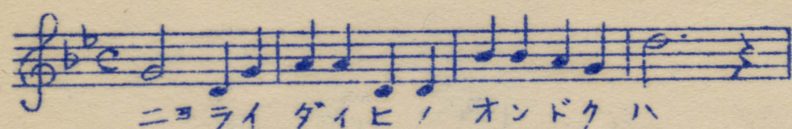
み佛様ホトケサマはいつも私共ワタシどもを護マモツてるて下さクダさ

います。

私共ワタシどもはみ佛様ホトケサマの教カシへを聞キいてよき人ヒト

と祈いのりませう。

恩 徳 讃



恩^{オン} 徳^{トク} 讃^{サン}

如^{ニヨ}來^{ライ}大^{ダイ}悲^ヒの 恩^{オン}徳^{トク}は

身^ミを粉^コにして も報^{ホウ}ずべし

師^シ主^{シュ}知^チ識^{シキ}の 恩^{オン}徳^{トク}も

骨^{ホネ}を碎^{クサ}ぎて も謝^{シヤ}すべし

宗 歌

ふかき及法にあひまつる
身の幸亦にたとふべき
ひたすら道をききひらき
まことのふむねいただかん

永々のやみよりすくはれし
身の幸亦にくらぶべき
六字のふ亦をと亦へフフ
よの亦りはひにいそしまん

海の内外のへたて亦く
みあやの徳のたふとさを
わがはらからにつたへフフ
みくのに旅を共にせん

法の御山

法の又山のさくら花

昔のままに匂ふ花

道の枝折の跡とめて

さとりの高嶺の春を見よ

法の又山のほととぎす

昔のままに名づくる花

浮世は夢ぞ短か夜と

驚きよこすまをきけ

慰藉 (ホだめ)

奇 ^{オドロク} し 歎 ^{ナゲ} きの 中 ^{ナカ} に 慰 ^{ナゲ} 藉 ^{ダメ} あり	樂 ^{ウレシク} し 佛 ^{ブツ} と ホ ^ホ り ぬ ^ぬ ら む	歎 ^{ナゲ} き 悲 ^{カナシク} し む 世 ^ヨ に 別 ^{ワカ} れ	佛 ^{ブツ} の 御 ^{ミコト} 前 ^{マエ} に 幸 ^{サイハイ} あ ら む	涙 ^{ナミダ} の 中 ^{ナカ} に 慰 ^{ナゲ} 藉 ^{ダメ} あり	浮 ^{ウキ} 世 ^ヨ の 縁 ^ヱ 限 ^{カキ} り 來 ^キ て	別 ^{ワカ} れ て 逝 ^{ユキ} き し 法 ^{ホウ} の 友 ^{トモ}
--	---	--	--	---	--	--

我 ^{ワガ} 等 ^ラ 歎 ^{ナゲ} きの 中 ^{ナカ} に 慰 ^{ナゲ} 藉 ^{ダメ} あり	肉 ^{ニク} の 眼 ^メ は 閉 ^ト づ る と も	力 ^{チカラ} あ る 身 ^ミ と ホ ^ホ り ぬ ^ぬ ら む	手 ^テ 足 ^{アシ} の 三 ^ミ 動 ^{ウツク} き 絶 ^ツ ぬ れ ど
---	--	---	--

此^{コノ}身^ミを
捨^スて
て
限^{カキ}り
ホ^ホき

てられて抱に佛に

一
みほとけに

君ゆきぬ

ホつかしき

きえはてし

二
みほとけに

君ゆきぬ

みすくひを

示します

三
抱かれて

西の岸

おもかげも

かふしさよ

抱かれて

慈悲の國

身にかけて

かしこさよ

三
みほとけに

君ゆきぬ

つきせざる

笑みたまふ

四
みほとけに

君ゆきぬ

うつくしき

ホりましし

抱かれて

花の里

たのしみに

うれしさよ

抱かれて

宝樓閣

みほとけと

たふとさよ

佛教青年會會歌

曉の鐘は高鳴り
朝日子の光かがやく
いざ吾等
共に目ざめん人の世の朝

善象の縁もえたち
無憂華の匂たたよ爪
いざ吾等
共に勵まん人の世の春

天地の命は永く
金剛の力漲る
いざ吾等
共に進まん御佛の跡

佛青行進曲

一

東^{トウ}方^{ホウ}既^{スデ}に明^{アキラ}け初^{ハジ}めて
 曉^{トウ}の鐘^{カネ}鳴^{ナゲ}りひびき
 癡^チ伽^ガの鳥^{トリ}のとび交^マえる
 こ^コ黎^{レイ}明^{メイ}の太^{タイ}平^{ヘイ}洋^{ヤウ}

Y 佛^{ブツ}青^{ソウ}
 B 佛^{ブツ}青^{ソウ}
 A 佛^{ブツ}青^{ソウ}

二

燦^{サン}たる慈^{ヒツナ}光^{クワウ}身に得^エて
 金^{キン}剛^{コウ}不^フ壊^{クワイ}の此^{ココ}の世^ヨに信^{シン}
 團^{ダン}結^{ケツ}一^{イツ}致^シ人^{ニン}の世^ヨに
 建^{ケン}て誠^{マコト}の法^{ホウ}の道^{ミチ}

Y 佛^{ブツ}青^{ソウ}
 B 佛^{ブツ}青^{ソウ}
 A 佛^{ブツ}青^{ソウ}

三

異^イる國^{クニ}は数^{カズ}あれど
 不^フ二^ニの教^{キョウ}えにうち集^ツい
 我^ワ等^{トウ}の常^{ジョウ}にかかぐるは
 五^イ色^{シキ}に染^シめし新^{シン}佛^{ブツ}旗^キ

Y 佛^{ブツ}青^{ソウ}
 B 佛^{ブツ}青^{ソウ}
 A 佛^{ブツ}青^{ソウ}

四

今^{イマ}こそ空^{ソラ}は輝^{ヒカ}きて
 谷^{タニ}間に脊^セワ岩^{イハ}魚^{イサ}の背^セに
 曠^{クワン}野^ノの涯^{ヘリ}の露^{ツルシ}草^{クサ}に
 惠^ヱみの光^{ヒカル}はさしそく

Y 佛^{ブツ}青^{ソウ}
 B 佛^{ブツ}青^{ソウ}
 A 佛^{ブツ}青^{ソウ}

佛敎婦人

一、八百萬にも
人の心
佛の教を

むすばれし
系あぢを
ときほどく
仰ぐべし

二、つどれの衣
着るとても
みのり豊けき
女たち
柳櫻の
にしきをぞ
こころの上によそはあむ

三、まこと心
大丈夫を
標正しきを
をみあ子を
あはれ御國の
おんため
育みたてよ
はぐくめよ

夕の歌

一 静かにくれゆくこの夕べ

鐘が鳴る 鐘がふる

二 世の成やみをつゝみて

鐘が鳴る 鐘がふる

三 聞けよ目醒めよ同朋よ

鐘が鳴る 鐘がふる

四 けふの感謝と幸福の

鐘が鳴る 鐘がふる

朝の歌

一 朝あくくに

浄き勤めに 佛教仰ぎ

二 朝あくくに

浄き思を 佛行を慕い

三 朝あくくに

浄き意を 語らう我等 佛證護之

四 慈恩あふるゝ貴き一日

今日も捧げん我等の生命

佛の子供

一 ぬれ等は佛の子供なり

うれしい時も

かゝしい時も

二 ぬれ等の袖にすがりあむ

三 ぬれ等は佛の子供なり

をさかき時も

老いたる時も

四 佛にかはらずつかへあむ

佛の御手

一 佛のみに 我等は引かれ

樂しき國に いざや行かへん

(折り返し)

ああ御佛 ああ御佛

ああ御佛 衆を愛す

二 我等の罪も 佛の御手に

まかせまつれば我が世は安し

三 いざ我が友よ手を取りあひて

佛のをしへ 共に聞かへん

坊やはよい子

一 朝早う起きて
 手水をつかひ
 み佛様に
 お禮をします
 なむあみだぶつ
 なむあみだぶつ
 なむあみだぶつ
 なむあみだぶつ
 私はいつも
 かういふて拜む
 ニみ佛さまは
 お手々をあけて
 坊やはよい子
 大きくおなり
 お手々をさげて
 かはいい嬢や
 嬉しい時も
 嬉しい時も
 いつしよに居よ
 なかよくお遊び

ののさま

のんのん ののさま
 ほとけさま
 おてて あはせて
 おがみませう
 のんのん ののさま
 ほとけさま
 おめめ つぶつて
 おがみませう

佛の又光

あれく^一露^{ツユ}がきらくくと
朝日^{アサヒ}をうけてひかつてる
わたしもほとけのみ光^{ヒカリ}りを
うけてよい子と

なりませう

あれく^二草^{クサ}がそよくくと
朝風^{アサカゼ}うけてなびいてる
わたしもほとけのみ教^{シユ}へに
従^{ツグ}ひよい子と

なりませう

御親の聲

一
又親^{オヤノミ}の聲^{コエ}が高^{タカ}らかに
きこえるやうな^{コト}持^テ
嬉^{ウレシ}しい事が昨日^{キノ}今日^{ケノ}
我^{ワガ}等のめぐりによつて來^クる

二
風^{カゼ}のひびきも鳥歌^{トリウタ}も
流れの音^ネも慕^慕しく
朝^{アサ}は又親^{オヤノミ}に起^{オキ}されて
夜^ヨは又親^{オヤノミ}に護^ゴられる

三
佛^{ブツ}の心^{ココロ}いたいて
今は嬉^{ウレシ}しい夜晝^{ヨハ}を
樂^{ウレシ}しく暮^クす私等^{ワガタチ}は
御親^{オヤノミ}のからだは我^{ワガ}からだ

幸ある我

一

小鳥の聲に夢さめて
慈悲のみ親を拜しつ
樂しき今日を思ふとき
幸ある我を歌ふなり

二

学びの庭にはた家に
おのがつとめをなしとけて
佛の恵恩ふとき
幸ある我を歌ふなり

三

夕樂しきまとるして
智慧と慈悲とにまもらる
嬉しき此の身思ふとき
幸ある我を歌ふなり

四

げに幸なりや幸なりや
憂へ悲しむ人の世に
樂しき慈悲に育ちつ
幸ある我を歌ふなり

月が出た

一 月^{ツキ}が出^デた 月^{ツキ}が出^タた

手^テ毬^マのやうにまんまるく

又^{マタ}佛^{ホツ}様の^{ヨウ} おこゝろは

二 月^{ツキ}のやうにまんまるい

鏡^{カガミ}のやうに 月^{ツキ}が出^タた

又^{マタ}佛^{ホツ}様の^{ヨウ} おこゝろは

三 月^{ツキ}のやうに くもらない

又^{マタ}佛^{ホツ}様の^{ヨウ} 月^{ツキ}が出^タた

慈^ジ悲^ヒの光^{ヒカリ}に まもられる

又^{マタ}佛^{ホツ}様の^{ヨウ} お子供^{オコドモ}は

月^{ツキ}のやうに うつくしい

佛さまとは

ほとけさまとは どんなかた

ねがいのとうり ねたしらを

おたあけなさる おかたです

ほとけさまとは どんなかた

なさけもちえも かぎりなく

とうといかたが ほとけさま

ほとけさまとは どんなかた

ねらうために むをすてて

生かして下さる おかたです

ほとけさまとは どんなかた

いのちをながく またつよく

めぐんで下さる ほとけさま

兒守歌

一 坊^ぼやの夢^{ゆめ}は

三里^{さんり}山^{さん}道^{みち}

ふんでほとけの

きんらんどんすの

ねんねんよい兒^こぢ^ぢや

ねんねしな

どこへ行^いた
里^{さと}の雪^{ゆき}
國^{くに}へ行^いた
國^{くに}へ行^いた

二 坊^ぼやは夢^{ゆめ}に

七里^{しちり}結^{むす}野^の

こえて後^ご光^{ひかり}の

金^{かね}銀^{ぎん}珊^{さん}瑚^この

ねんねんよい兒^こぢ^ぢや

どこでぬた
痕^{あと}の花^{はな}
國^{くに}でぬた
國^{くに}でぬた

ねんねしな

聖夜

一 星^{ほし}の夜^よ空^{ぞら}の美^{うつく}し^さ

誰^{たれ}かは知^しるや天^{あま}のなぞ

無^む数^{すう}の瞳^{ひとみ}かよやけは

歡^{たの}喜^{しみ}になごむ我^{わが}がこゝろ

二

ガ^ガン^ンヂ^ヂス^ス河^カの真^マ砂^サより

あまたおはする佛^{ほとけ}達^{たち}

夜^よ書^{しょ}常^{じょう}に守^{まも}らあと

聞^きくになごめる我^{わが}心^{こころ}

聞^きくになごめる我^{わが}心^{こころ}

聞^きくになごめる我^{わが}心^{こころ}

聞^きくになごめる我^{わが}心^{こころ}

眞實の佛

一 御園に匂へる花の下に
 疾く来て眺めよ 妙の姿
 散りては空しき もとの梢
 盛を過ぎなほ悔はつきじ
 二 静けき夕の草に宿る
 清けき白露 玉つゞれど
 朝明け御光かゞやく時
 憐や忽消えて行くよ
 三 実にごそ似たれや花や露や
 人の世かくてぞ亡がるなる
 あゝ夢うつしの境はなれ
 眞實の佛の御手に
 すがれ

生らば念佛

一 生らば念佛 相續し
 死なば浄土に 生れなん
 とてもかくても 此の身には
 と思ひぬづらふ 事ぞなき
 二 生死の活海 ほとりなし
 又し沈める 我等をば
 彌陀弘誓の 舟のみぞ
 のせて必ず 渡しける
 三 超世の悲願 聞きしより
 我等は生死の 凡夫かは
 有漏の穢心は 変らぬど
 心は浄土に あり

一 光

晴れたる夜半の空を見よ
数限りなき星かげは
きらりきらりと輝けど
大きな月は唯一つ

二
十方諸佛はましませど
私を救ひたまはるは
広い世界に唯一人
御名も尊い阿彌陀佛

三

私の罪は深けれど
私の咎は重けれど
佛の慈悲が強いから
形にかかる事も無い

四

友よ疾く来よ我が園の
青葉の蔭で又佛の
尊い御名を稱へつつ
光仰いで遊ばうよ

紅百合

一

赤^{アカ}きを誇^{ホコ}る紅^{ベニ}百合^{ユリ}も
露^{ツユ}にかゆくぞ^{アホ}憐^{アハ}れなる
流^{ナガ}るゝ水^{ミヅ}や走^シる雲^{クモ}
暫^{シバ}時^ンも此^コ處^コに止^{トド}まらず

二

水^{ミヅ}底^{ソコ}深^{フカ}き琵琶^{ビバ}湖^{ハコ}さへ
乾^{カワ}きて盡^ツくる時^{トキ}あるを
短^{ミジカ}き人^{ヒト}の世^ヨにありて
道^{ミチ}求^{モト}めざる愚^{オホ}さよ

三

たとへば上^{ウエ}に炎^{ホノ}もえ
低^{ヒサ}きに水^{ミヅ}のつ^ツく如^{ゴト}く
御^ミ惠^ケ深^{フカ}き御^ミ佛^{ブツ}は
罪^{ツミ}ある我^{ワレ}を救^スひます

四

迷^{マヨ}の里^{サト}を今^{イマ}や去^サり
永^ト劫^ハの光^{ヒカリ}と生^イ命^メ得^ユて
佛^{ブツ}の御^ミ名^ナを稱^{ホト}ふれば
喜^{ヨロ}び胸^{ムネ}に満^ミち充^ミてり

膚きまとる

一

膚^キきまとる いざ友^{トモ}來^キよ

我^ワ等^ラは皆^{ミナ} 慈^ジ悲^ヒの子^コよ

愛^{アイ}みの花^{ハナ}咲^サく園^{ヅミ}

御^ミ親^{オヤ}はとく 待^マちませり

(折返し)

救^スはるる 嬉^{ウレ}しさよ

いざとく來^クよ此^コのま^マとる

二

怒^イり憎^{ウラ}み 愛^{アイ}し嫌^{ウラ}ふ

幾^イ多^タの咎^{トガ} 多^{オホ}き罪^{ツミ}

か^カくて終^ツに 沈^シむ我^ワ等^ラ

導^ミぎます 又^マ手^テたふと

三

行^ユく手^テ暗^クき よ又^マちの旅^ツ

絶^ツえず守^モる 父^チの慈^ジ悲^ヒ

何^ニに喩^ユへん この悦^ユび

いざや讚^タへん 我^ワが幸^{サチ}を

佛さま

一のんのののさま佛さま
 むたしの好きな母さまの
 お胸のようになんわりと
 だかれてみたい佛さま
 二のんのののさま佛さま
 むたしの好きな父さまの
 おててのようになんわりと
 すがつてみたい佛さま
 三のんのののさま佛さま
 みあかしあげておがむとき
 おすがたみえてきらりと
 後光のひかるほとけさま

まねきの御手

一
 まねきの御手は前にあり
 すぐひの御聲耳にあり
 佛の慈悲に夜はあけて
 うれしの涙胸にみつ

二
 よび聲きこゆ西の岸
 あゝむる聲にはげまされ
 ひたすらあゝむ人の世に
 やはらぎあふれ光みつ

佛 教 徒 の 歌

一 一つ心に 打仰ぐ
佛の光り 吾等を照す
淨き光りの 中に立つ
此の悦びを 共に歌ねん

二 一つ心に 稱えあう
佛の恵み 吾等を包む
深き恵みの 中に住む
此の悦びを 共に語らん

三 一つ心に 頼みあう
佛の力 吾等に宿る
永久の力に 護らるる
此の悦びを 共に傳へん

四 一つ心に 集い來し
吾等の國は 佛の御國
照しあいたる まごころの
此の悦びは とねに盡させじ

白道

一 地をやく焰もゆるとも
 水は空うちさがまくも
 あくひの御聲ひとあちに
 ありむ佛の教かな

二 いばらの道に行き悩み
 迷ひもたゆる闇の世に
 り光あふる本願の
 ちかひ尊きあくひかな

三 きりなき慈悲のましませば
 世の波風のあらきをも
 ちかひの船に安らげく
 ひるき形ぞうれしけれ

合掌歌

一 野ゆき山ゆき
 たどきもしらぬ
 あはれ旅人
 さまよへるあのがまなこもて

二 夕遠のちかひ
 光のまへに
 めぐみにあしむ
 なやみのかげは
 たよるこびの
 わが合掌を

ゆきくれて
 さまよへる
 いづくまで
 あゆみもて
 いたるべき
 みちびきの
 めざめるは
 無碍のみち
 あともなく
 こころより
 さしげまし

花祭行違歌

一、

昔も昔三千年
花咲き匂ふ春八日
郷音きわたつた一鼓耳に
天にも地にも我一人

三、

広い世界の真中で
敬への門をうちひらき
渴ける人にふりまいた
甘露の水はかぎりなし

二、

立派な國に生れ出で
富も位もありながら
一人お城をぬけ出でて
山にこもりし十二年

何年たつても變りずに
咲いたまゝなる法の花
きれいなつを胸にさし
我等もまげづに励みませう

花祭の歌

一、

お庭はこくらの花のまく
草のしとねもやばらかに
今日ばうれしい花まつり
祭の前でわたしらは
唱歌うたうて遊びませう

三、

小枝に鳥がよいこえで
はるのなさげを歌てる
いつしよにもちうて私らを
いつもいたはり下される
ほとげの慈悲を讀ませう

二、

みなさんおいでよ暖かく
野草を渡る者がせが
ながよく遊ぶ私等を
かはゆがられるみほとげの
心のやうにふいてくる

四、

花で此の世がかざられる
うれしいはるをつかさどる
お方もしもあるならば
此の世に入なつかしい
お慈悲の高い阿彌陀さま

花 祭 行 進 曲

一、昔も昔三千年

花咲き匂ふ春八日

響きわたつた一聲に

天にも地にも我一人

二、立派な國に生れ出で

富も位もありながら

一人お城をぬけ出でて

山にこもりし十二年

三、廣い世界の真中で

敵への門をうちひらき

渴ける人にふりまいた

甘露の水のかぎりなし

四、何年たつても変らぬは

咲いたまゝなる法の花

きれいなつを胸にさし

我等もまけづに勵みませう

花祭の歌

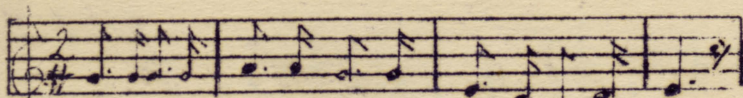
一 お庭はさくらの花のまく
草のしとぬもやはらかに
今日はうれしい花まつり
佛の前でわたしらは
唱歌うたうて遊びませう

二 みなさんおいでよ暖かく
野草を渡る春かぜが
なかくよく遊ぶ私等を
かはゆがられるみほとけの
心のやうにふいてくる

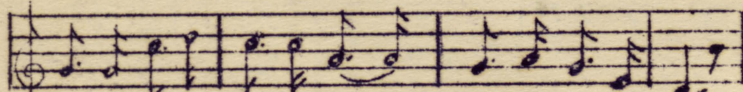
三 小枝に鳥がよいこえで
はるのなさを歌つてる
いつしよにそろつて私らを
いつもいたはり下される
佛の慈悲を讃へませう

四 花で此の世がかざられる
うれしいはるをつかさどる
お方がむしろあるならば
此の世に一人なつかしい
お慈悲の高い阿弥陀さま

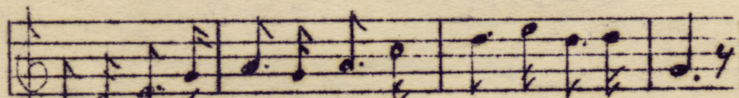
宗 祖 降 誕 會 の 歌



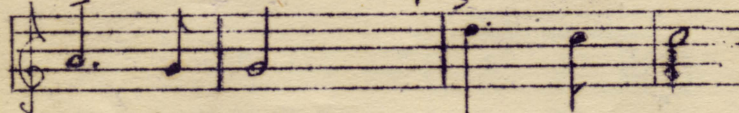
1. フレラガ チチナル ミホケケ ハ
 2. おんとし くさいの ちびざくら



ミツカラ ジヒノー シヤトナリ
 ちるやー のえいの やまあらし



ガノロー ヨキヒニ アレマシヌ
 めれらが ためとは いとほしや



イ ハ ヘ イ ハ ヘ
 た た た た た た

	五	四	三	二	一
よ	や	み	み	の	今
ろ	あ	な	な	ち	あ
こ	す	が	が	る	み
び	き	ら	は	ん	の
い	を	つ	は	が	の
さ	し	み	と	が	よ
み	へ	あ	は	た	き
た	を	る	は	め	日
た	ひ	人	は	い	の
た	ら	の	た	の	あ
へ	よ	子	は	い	し
な	ば	の	い	あ	ま
を	じ	の	と	ら	は
	と	う	ほ	し	ね
た	ま	う	し	く	は
た	あ	た	や	ら	な
へ	り	た	や	い	り
	て	た	は	は	
	た	へ	へ	へ	
	れ				

宗 祖 降 誕 會

く ヤ ミ ニ - マ - ヨ ヲ フ レ ヒ - ト - ノ
 イ ク ル - ミ - ナ ハ ヒ ラ - ケ タ リ
 ム ロ / ト モ シ ハ ル ケ ク モ
 カ ガ ゲ - ン - ト テ ア レ - マ シ ス
 タ タ ヘ マ ツ レ ケ フ ノ ヒ ヲ
 イ ハ ヘ マ ツ レ ケ フ ノ ヒ ヲ

<p> いたはへまつれ たへまつれ ぞがんとて かんろのあめ いかはてにし いくしみにし 二 あめつちは うるほへり とこしへに あれましぬ けふの目を けふの目を </p>	<p> やみにまよふ いくるみちは むろのともし かかげんとて いたはへまつれ 一 われひとの ぢらけたり はるけくも あれましぬ けふの目を けふの目を </p>
---	---

三寶の恩

マヨイノ ヲーリノ ヲーリノ
 ヲーリノ ヲーリノ ヲーリノ

オシエノ フーネニ ノリノシノ
 さとりの フーネニ ノリノシノ

ミチビク マーガニ コギユケバ
 こころに かるくもえなれ

サトリノ キーシニ イタリナン
 これさん ぼくの めぐみなり

マヨイノ 迷の海に沈む身も
 フネ 舟の船に法の師の
 キーシニ 導くまゝにつぎゆけば
 イタリナン 悟りの岸にいたりなん
 マーガニ 法の深山にわけ入りて
 コギユケバ 悟りの月を見るときは
 ヲーリノ 心にかゝる雲もなし
 フーネニ 心にかゝる雲もなし
 ノリノシノ 心にかゝる雲もなし
 シノ 心にかゝる雲もなし
 三寶の恩なり

報恩講の歌

フーカノ ウラフノ カタオナ ミノ
 心とりに いてし も よろこび なは

ヨセカケ ヨセカケ カエルゴ トク
 ふたりと おもえ ふたりに して

ワシヨニ シガク カーヨイ キタリ
 よろこば おりは みたりに なるぞ

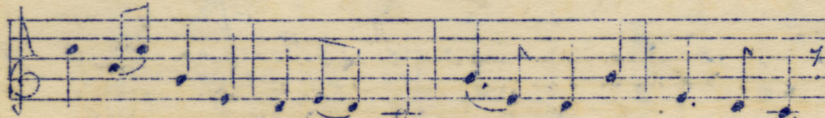
ミホケ ノジヒ ツタエナ マシ
 そのひと りこそ しんらん な

五	三	四	三
よろこびたかく	名残のみ言	もしそれ知識の	名よが聲を
うれしき深く	法をつどのの	永久のやみじに	影きうらん
身は粉に骨は	み心こめし	今しほとけの	迷ひぬらん
むくいがたなき	君によりて	慈悲にあいぬ	君が御徳
	むねにあふれ	肝に銘ず	御座毎には
	さやかにして	砕きてしも	のぞみ給う

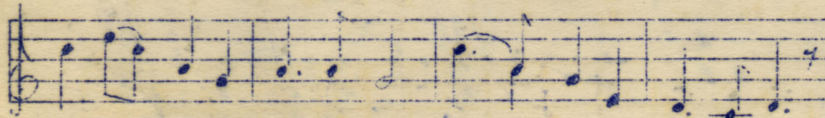
清けき光



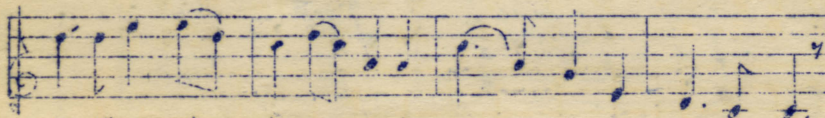
チケ-サニヤドル タマノツユハ



ミソ-ラフツキーニヒ-カリエタリ



ケガ-レシムネモチ-チノジヒノ



ヤドレバーキヨ-ケキヒ-カリミツヨ

一 一章に宿る玉の露は

夜空の月に光得たり

汚れし胸を父の慈悲の

宿れば清けき光みつよ

二 潮のづとく寄する夜やみ

あらゆる罪は我が身にあり

うれしき父の教はくは

いかでか我等は安きを得ん

三 花咲く園に鳴く川鳥は

幸に満ちたる春を歌う

我等を涼しきうきを上げて

佛の恵みきたゝえまわらん

花賣り

オオオ ハハハ ナナナ メメメ セセセ メメメ セセセ

メキコ デレノ タイヨ イナイ ハハハ ナナナ フラフ

キキミ ヨヨウ 一ホ ハハト オメケ シテサ カ一 サタマ マ一 ナイラ

タハカ シナザ ジョマ ウツマ ビリセウ

花賣り

オハナメセメセ
 キヨウハメデタイ
 オハナメセメセ
 キレイナハナヲ
 オハナメセメセ
 コノヨイハナヲ
 キヨウハメデタイ
 ハナマツリ
 オハナメセメセ
 メデタイハナヲ
 キヨウハメデタイ
 タンジョウウビ

ミホトケサマヲ
 カザリマセウ

千九百四十二年二月二十一日印刷
千九百四十二年二月十一日發行

編輯者 北米加州滿座那十三一十五
滿座那佛教會

發行者 北米加州滿座那十四一四
永富信常

印刷者 北米加州滿座那二十三三
岩田昌規

北米加州滿座那十六七三
明瀨昇

北米加州滿座那三五四四
光畑一二鶴

發行所 滿座那佛教會

不許複製